

世界各地の社会的要請に 対応可能な日本語教育 シンポジウム

入場
無料

※要事前申し込み

開催日時

2023年9月25日(月)

【シンポジウム】10:00～17:45 (受付開始 9:30)

【懇親会】18:00～20:00

開催会場

東京国際交流館 プラザ平成

東京都江東区青海2-2-1国際研究交流大学村内

※オンラインでの参加も可

使用言語

日本語

英語同時通訳付

お申し込み

<https://forms.gle/fZkTt2aktpzXvxy18>

【締め切り】2023年9月18日(月)



講演内容

10:00-10:05

主旨説明

10:05-10:10

主催大学挨拶

10:10-10:15

主催者挨拶



池田 潤氏

筑波大学国際担当副学長



吉岡 知哉氏

独立行政法人
日本学生支援機構理事長



司会

文 昶允 (筑波大学)
岩崎 拓也 (筑波大学)

10:20-11:00

基調講演 1

11:05-11:45

基調講演 2



海外における日本理解促進と
日本語教育の今後の役割

登壇者

梅本 和義氏

独立行政法人 国際交流基金 (JF) 理事長

国際交流基金では諸外国の様々な階層の日本理解促進を目的として、文化芸術、日本研究・国際対話、日本語教育など多岐にわたる分野で事業を展開しているが、限られた資源で事業インパクトを最大化するためにも異なる分野間の連携・協働が課題となっている。本講演では国際交流基金の各種プログラムを紹介しつつ、相互連携の可能性についても述べてみたい。



大学の国際化とキャンパスに
おける言語コミュニケーション

登壇者

矢口 祐人氏

東京大学グローバル教育センター長、同大副学長

日本の大学を進めるにあたって、英語による授業や情報の提供がますます重要になる一方、どのような日本語教育を提供すべきかも課題になっている。大学の国際化の必要性が強く求められるなか、キャンパスにおける言語コミュニケーションのあるべき姿について模索したい。

13:00-15:00

ラウンドテーブル 1

15:15-17:30

ラウンドテーブル 2

日本語オンラインコンテンツの現状と可能性

開発・公開だけじゃない大学発の教育プラットフォーム

教師を育てる多様な方法

研究だけじゃない大学院の教師養成



ラウンドテーブル1

日本語オンラインコンテンツの現状と可能性

開発・公開だけじゃない大学発の教育プラットフォーム

13:00
~
15:00



大庭 良介
(筑波大学)

●JV-Campus：日本と世界を繋ぎ、共創する
日本発のオンライン高等教育プラットフォーム

JV-Campusは、SGU事業・大学の国際化促進フォーラムの中核プロジェクトである日本発の国際的オンライン教育プラットフォームである。日本の高等教育の玄関口として機能し、国内外の様々な大学が提供する教育コンテンツを通じて、世界中の学習者と教育者を繋ぐ役割を果たすことを目的としている。JV-Campus全体像の紹介とともに、日本と世界を繋ぐ日本語教育の場としてのJV-Campusの可能性について議論する。



大津 友美
(東京外国語大学)

●JV-Campus：「日本語教育パッケージ」について

JV-Campus「日本語教育パッケージ」は、日本語教育に関するコンテンツをレベル・技能・言語知識ごとに分類し、パッケージングしたものである。日本語学習を希望する人が必要とする日本語学習コンテンツを容易に検索することができるようになっている。日本語教育パッケージのコンテンツ例とその活用方法を紹介するとともに、パッケージの今後についても考えたい。



関崎 博紀
(筑波大学)



フッシュネル・ケード
(筑波大学)

●JV-Campus：筑波大学のオンライン日本語教材の開発

本発表では、筑波大学が開発し、JV-Campusで提供予定の日本語教育用コンテンツについて紹介する。現在開発中のコンテンツは、1)キャリア支援コンテンツ、2)生活日本語コンテンツ、3)アカデミック日本語コンテンツ、4)評価コンテンツの4つである。発表では、開発の経緯、目的と進捗を共有したうえで、開発完了後の利用方法の広がりについて議論したい。



池田 佳子
(関西大学)



古川 智樹
(関西大学)

●オンライン学習歴の可視化を考える

JV-Campusをはじめ、多くのオンライン教育コンテンツや学習モジュールが日本語教育・留学生教育領域でアクセス可能となりつつある。これらのリソースを有機的に活用した学習を展開するにあたり、学びの質の保証や学習履歴をどう形成し取り扱っていくことが望まれるだろうか。正課内外・伝統的/非伝統的なプログラムなど、オンライン学習がもたらす多様な「学び」の重要な課題を考察する。



ディスカッサント

グエン ティ フォン チャー (フエ大学)
ムノジャット・ウマロバ (ウズベキスタン国立世界言語大学)
リナ・アリ (カイロ大学)



司会

伊藤 秀明 (筑波大学)
チョーハン・アヌブティ (筑波大学)

ラウンドテーブル2

教師を育てる多様な方法

研究だけじゃない大学院の教師養成

15:15
~
17:30



永田 良太
(広島大学)

●学部・大学院の連携で教師教育者を育てる

日本語教師に求められる資質や能力の議論が深まる中で、そのような日本語教師を育てる人材をどのように育成するかが課題となっている。大学院で学ぶ学生には、将来的にさまざまな日本語教育現場で、教師教育者としての役割を担うことが期待される。本発表では、学部の日本語教員養成課程と大学院の授業を連動させることで、教師教育者として必要な視点を獲得させようとする取り組みを紹介する。(教育、学部・大学院連携)



小森 万里
(大阪大学)

●教育支援活動(TA・TF)で教師を育てる

未来の日本語教師を育てる場として、留学生教育機関もその一翼を担える場となり得るのではないかと。本発表では、日本語を専攻する大学院生が、留学生の授業でTA(Teaching Assistant)・TF(Teaching Fellow)として教育支援活動に携わることを通して、教師としての資質向上を目指す実践について紹介する。留学生の授業でのサポート業務を通してのTA・TFの学び、資質向上、キャリア形成について報告するとともに、教師養成における留学生教育機関の可能性について述べる。(教育、部局間連携)



太田 亨
(金沢大学)

●地域社会との協働で教師を育てる
「地域に資する国際的な日本語教育人材を育てる」

金沢大学の日本語教師養成について、日本語教師への道だけでなく、地域の国際交流を担う人材を育成しており、地域の日本語や外国人コミュニティの参与観察への取り組み、修了後の進路について報告する。(教育、地域連携)



石黒 圭
(国立国語研究所)

●学習者コーパスで教師を育てる

日本語教師は、教室という空間で学習者と向き合い、日本語を教える経験を通して自らのスキルを高める。しかし、教室という限られた空間、授業という限られた時間では、教えることに集中するあまり、学習者の学びの現実という大事な点が見落されがちである。国立国語研究所では、学習者の日本語の学びに寄り添った多様な学習者コーパスを構築している。そうした学習者コーパスから、学習者の習得の実態について教師は何を学ぶのかを検討する。(研究、大学連携)



小野 正樹
(筑波大学)

●国際的な連携で教師を育てる

本発表では、JSPSアジア・アフリカ研究拠点形成事業での取り組みを紹介する。日本語教育の今後の発展が期待される中央アジアのウズベキスタン、カザフスタン、東南アジアのベトナム、アフリカのエジプトのそれぞれの地域が抱える将来の課題が、時間の推移や社会制度の変化で、どの地域でも解決すべき課題となると考え、日本語教育の学習内容、学習方法を一緒に考え、学習者が自律的に学ぶ仕組みを学習者に提供し、能率的な学習方法を開発について報告する。(研究、国際連携)



ディスカッサント

ボランクロヴァ サマル (カザフ国立大学)
守時 なぎさ (リュブリャナ大学)
パッチャーラン スワンナコート (カセサート大学)



司会

ヴァンバーレン・ルート (筑波大学)
波多野 博頭 (筑波大学)